

「広報誌洋上アルプス・手作り植物図鑑…」 世界自然遺産屋久島からの情報発信

九州森林管理局 屋久島森林生態系保全センター 山崎 勇勝
小口 桂子
計画課（元 屋久島森林生態系保全センター） 竹部 浩一郎

1 はじめに

屋久島森林生態系保全センター（以下「保全センター」という）の主な業務は、貴重な森林生態系の適切な保全管理や世界自然遺産地域等の保全のための野生鳥獣被害対策、地域や学識経験者、NPO 及び屋久島レクリエーションの森保護管理協議会との連携などがあり、その活動内容を屋久島だけでなく全国にPRする必要があります。

今回、保全センターからの情報発信として取り組んでいる広報誌「洋上アルプス」「手作り図鑑」等について報告します。

2 情報発信・活動の経過

(1) 洋上アルプス（現在 261 回）

保全センター設置の平成 7 年 4 月から毎月発行、活動内容や森林生態系に係る様々な情報発信を行う広報誌として、島内の公共機関、観光協会会員、学校、屋久島で調査研究を行っている各研究機関・大学や林野関係などに配布しています。

(2) 屋久島の森林（平成 8 年 3 月第 1 版～平成 16 年 3 月第 3 版発行）

屋久島の森林入門、各登山道の名勝、登山の心構えなどを写真入りで紹介し、屋久島を訪れる登山者に好評で販売を行いました。

(3) 屋久島の森林へのいざない（平成 14 年 7 月発行）

小学生以上を対象とした屋久島の森林と利用の歴史等を紹介した分かり易いパンフレットで、森林環境教育の教材として活用しています。

(4) ヤクシカ好き嫌い植物図鑑（平成 24 年 3 月発行）

ヤクシカがどの植物を好きか嫌いかを、簡便に確認するために作成した図鑑で、好き嫌いの根拠を説明した「解説編」を併せて作成しました。保全センターのホームページにも掲載しています。

(5) 手作り植物図鑑（平成 27 年 4 月発行）

歴代の職員が屋久島の山々で数年にわたり撮りためた写真を活用し作成したもので、214 種の樹木を掲載しました。樹形や葉の形から知りたい樹木を簡単に調べられるように編集しまし



図-1 情報発信の活用

た。特に、屋久島の一番の特徴である標高により生育する植物の違いについて記載しました。
 ※洋上アルプスやこれらの書籍・パンフレットは、森林教室や外部からの視察時にも活用しています（図-1）。

3 「洋上アルプス」

(1) 記事の変遷

- ①屋久島の植物（創刊号～現在）：写真（当初は線画）と短文で植物を紹介
- ②自然休養林情報（平成9年5月～12年3月）：ヤクスギランド・白谷雲水峡で行っている行事や新しい施設等を紹介
- ③私の屋久島（平成12年4月～13年3月）：役場職員・著名屋久杉命名者・自然や文化に関わる人が執筆したコラム
- ④生態系モニタリング（平成13年4月～現在）：九州森林管理局が毎年行っているモニタリング調査結果を報告書より抜粋
- ⑤屋久島の野鳥（平成24年4月～25年3月）：野鳥に堪能な職員の執筆
- ⑥巨樹・著名木屋久杉（平成27年5月～現在）：著名屋久杉を写真と文で紹介
- ⑦研究紹介（平成27年6月～現在）：屋久島をフィールドとして植物やサル・シカなどの研究者等に原稿を依頼し掲載
- ⑧雨量データ（平成8年7月～現在）：保全センターで観測（10箇所）
- ⑨統計データ（創刊号～現在）：春・GW・夏休みの縄文杉・自然休養林の入林者数など
- ⑩その他（創刊号～現在）：森林教室・会議等の報告

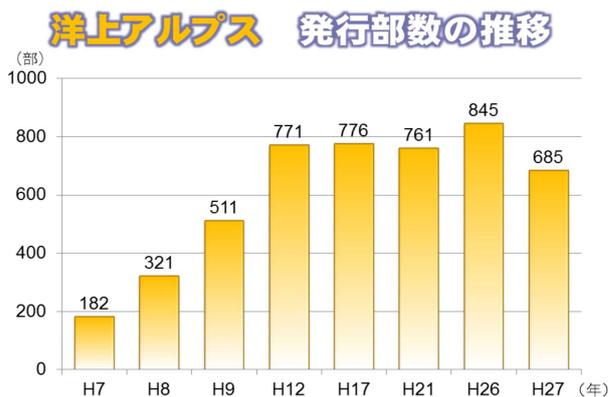


図-2 発行部数の推移

(2) 発行部数と配布先

創刊当初は182部、平成26年が最も多く845部発行していました。平成27年にページデザインや構成を見直す際に、ホームページの活用も含め送付先を再検討し、685部としました（図-2）。

配布先の内訳は、林野関係が最も多く、次いで各種団体・官公庁で、特に島内の企業・ホテルや学校等に全体の半分以上の485部を配布しています。

(3) 効果と反響

平成9年にアンケート調査を実施、平成27年も同様に8項目のアンケート調査を行いました。この中の3項目について検証しました（図-3）。

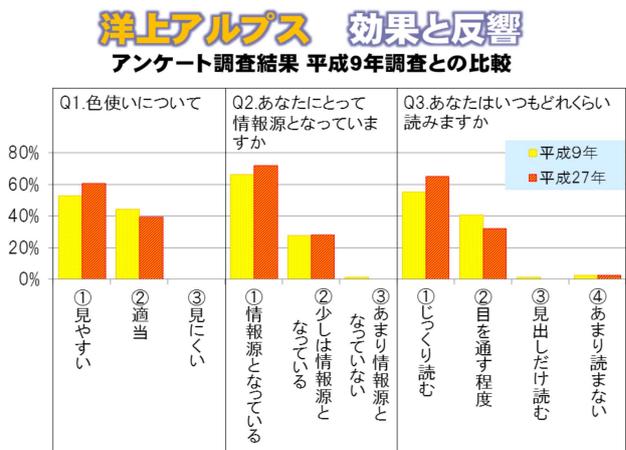


図-3 効果・反響

Q1. 色使いについて—「見やすい」が増加

Q2. あなたにとって情報源となっていますか—「情報源になっている」が増加

Q3. どれくらい読みますか—「じっくり読む」読者が10ポイント増えて65%

4 「手作り図鑑」の企画から製本まで(写真-1)

(1) 植物の選定

- ・ 主要な道路沿いや登山道、レクリエーションの森で普通に見られる種
- ・ 屋久島固有種、北限・南限種など
- ・ 写真がある程度揃っている

(2) 項目の決定 (図-4)

- ・ 見わけのポイント (アイコンや写真を多用して見わけの手がかりを多くした)
- ・ 標高による分布 (垂直分布)
- ・ ヤクシカの好き嫌い
- ・ 屋久島での名称
- ・ 名前の由来、用途など



写真-1 手作り図鑑 (表紙)

(3) 検索とページ配列

- ・ 検索手順を少なくして、アイコンにより目的のページにたどり着けるように編集
- ・ ページ配列は、似たものが隣り合うように編集

5 手作り図鑑の効果と反響

- ・ 屋久島の身近な樹木を、誰でも簡単に調べることができます。
- ・ 屋久島の樹木は、標高の違いにより棲み分けしていることがわかります。
- ・ 写真がふんだんに使用してあり、樹木の特徴が見わけやすい。
- ・ 似た植物との違いをわかりやすく説明されています。
- ・ シカが現在どのような植物を食べているかを調べることで、植物の名前まで覚えられるよう工夫されています。

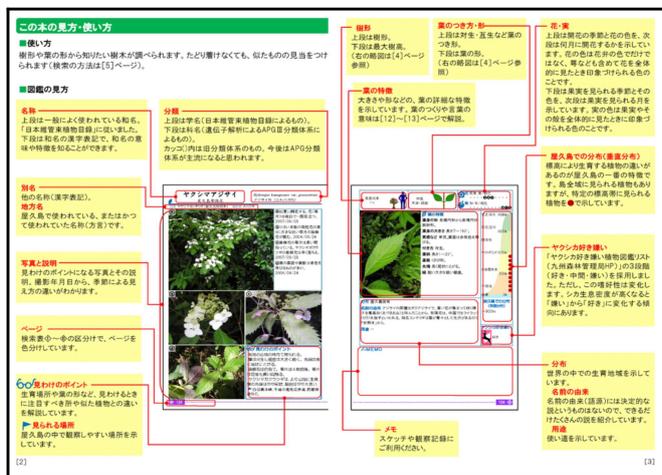


図-4 図鑑の見方・使い方

6 実行結果

(1) 効果

- ・ 各研究機関・地元観光業界・ガイド等の情報源として活用されています。また、役場・郵便局等で掲示されたり、ホームページ掲載により保全センター業務を全国的にPRできました。
- ・ 広報紙の情報を見てTV・新聞等の報道機関が現地取材に訪れるようになりました。
- ・ アンケート調査では、平成9年の調査と比較すると、「情報源になっている」「色使いがよ

- く見やすい」などが向上した結果、「じっくり読む」読者が 55 %から 65 %と増加しました。
- ・手作り図鑑を環境教育活動に活用し、屋久島の植物に興味を抱く人が増えました。
 - ・広報誌・書籍類を作成するため職員が自己研鑽に努め、スキルアップにつながりました。

(2)外部からの要望

- ・洋上アルプス：一般市民が屋久島の行事に参加できる情報の提供
- ・手作り図鑑：屋久島高校に新設された環境コースの教材

7 今後の展開

(1)洋上アルプス

- ・文字は大きく読みやすくなったが、文字数が少なくなったので、書式等を再検討します。
- ・屋久島町民や島外読者のニーズに応える新しい情報発信に努めます。

(2)植物図鑑外

- ・タブレットやスマートフォンなどで環境教育に活用します。
- ・白谷雲水峡やヤクスギランドなど観光名勝で使える「コンパクトガイドブック」を現在作成しており、今後はガイドも使える共通のガイドブックとして、屋久島の魅力を宣伝できるようにします（屋久島の植物データベースを含む）。
- ・くくり罟を使用して捕獲技術向上を図っている猟友会に、ヤクシカ嗜好植物の周知に努めます。

(3)その他

保全センターホームページの「トピックス」を活用し、新鮮な情報のスピーディーな発信に努めます。